

令和5年 3月 3日

福岡県教育委員会教育長 殿

所属校名 宗像市立東郷小学校
職・氏名 教諭 光尾 浩太
指導教諭 教諭 小島 恵太

研 修 最 終 報 告 書

このたび、長期派遣研修員として、下記のとおり研修をしましたので報告いたします。

記

- 1 研修種別 C 福岡教育大学附属福岡小学校研修員
- 2 研修場所及び所在地 福岡教育大学附属福岡小学校
〒810-0061 福岡市中央区西公園 12 番 1 号
TEL (092) 741-4731
FAX (092) 741-4744

3 研究主題及び副題

理解した道徳的価値を基に自己の生き方に気付く第2学年道徳科学習
～道徳的行為に関する問いを自分との関わりで解決する学習過程を通して～

4 研究内容の概要

(1) 主題の意味

理解した道徳的価値とは、教材に登場する人物の行為について考え・議論して気付いた人間が喜びをもって生活するために必要とされるものである。

自己の生き方に気付くとは、自分のこれまでの経験と道徳的価値を結び付けながら自分の感じ方や考え方を発見していくことである。

理解した道徳的価値を基に自己の生き方に気付く第2学年道徳科学習とは、これまでももっていた道徳的価値観について、喜びをもって生活するために必要とされるものと自分の経験の中の道徳的行為との関係において、曖昧であった道徳的価値を明確にしながら、自分自身の感じ方や考え方を発見していく学習のことである。具体的には、まず、自分自身のよりよい生き方への求めに応じて、主体者として、これまでの経験から道徳的価値についての問いや気がかりをもつ。次に、曖昧であった道徳的価値について話し合いながら、道徳的行為を支える心情に気付く。さらに、自分との関わりの中で経験と道徳的価値はどう結び付いていたか自己を見つめ、自分にある道徳的価値に気付く(図1)。このことは、自己の生き方についての考えを深めていく道徳科学習を目指していく上で大変意義深い。そこで、本研究では、次のような子供の姿を目指す。



図1 理解した道徳的価値を基に自己の生き方に気付く姿

- 自分のこれまでの日常生活について、想起した経験の中から道徳的諸価値の理解につながる問いや気がかりをもつ子供 (自己内省)
- 出合った道徳的行為を支えているのは、道徳的価値であるということに気付く、それがよりよく生きるために必要とされるものであると理解することができる子供 (価値理解)
- これまでの経験と見いだした道徳的価値を結び付けることを通して、自分の感じ方や考え方を発見する子供 (自己理解)

(2) 副題の意味

道徳的行為に関する問いを自分との関わりで解決する学習過程とは、人間としての本来的な在り方やよりよい生き方を目指して行われる意思を伴う行為は本当に自分の心に支えられているのだろうかという気がかりについて、自分の経験と道徳的価値を結び付けながら自己の感じ方や考え方を発見していくことである。具体的には、つかむ段階で自分の経験から道徳的価値への問いをもち、見いだす段階で行為の裏側にある心情に気付き、見つめる段階で問いを解決しながら自分にある道徳的価値に気付くことを指す。これらの学習を通して、これまでももっていた道徳的価値観について、喜びをもって生活するために必要とされるものと自分の経験の中の道徳的行為との関係において、子供たち一人一人が、曖昧であった道徳的価値を明確にできる。このことは、自分自身の行為や心情との関係を整理しながら自己の感じ方や考え方を発見する姿へつながる。

(3) 仮説実証のための着眼

ア 1人1人の思いや経験を探る事前アンケート

本時学習で迫る道徳的価値の理解へ向けた土台を整えるために、事前にアンケートをとる(図2)。具体的には、①本時学習の内容項目に関することについての考えや過去の経験を問う。②事前アンケートの結果を、行為と心情に関する考えの深まりの質的な面や考えの多さや偏りの量的な面から整理、分析する。

イ 自分見つけめシートを活用した問いづくり

事前アンケートで出てきた道徳的価値への認識を基に、自分見つけめシートに内容項目に関する道徳的行為を記入させる(図3)。具体的には、①事前アンケートで考えた道徳的価値と自分の経験を結び付けながら道徳的行為を想起させる。②道徳的価値観を共有し、その中での考え方のずれから道徳的価値への曖昧さを自覚することで、道徳的価値への問いや気がかりをもつ姿が生まれると考える。

ウ ねらいに応じた表現活動の設定

表に示す目的、内容、方法、設定の視点(①教材、②子供の実態)を基に表現活動を設定する。これらの表現活動を教材や子供の実態に合わせて適切に設定することで出合った道徳的行為を支えているのは、道徳的価値であるということに気付き、それがよりよく生きるために必要とされるものであると理解する子供を育成することにつながる。と考える。

エ 自己の生き方に気付く自分見つけめシートの活用

見つめる段階において、道徳的行為が実現できた背景を探る。これらの段階を通して自分にもある道徳的価値の存在に気付き、道徳的価値への感じ方や考え方を広げたり深めたりさせる。具体的には、①授業前に想起した内容項目に関するこれまでの道徳的行為の経験を改めて振り返らせる。②見つめる段階において、これまでの道徳的行為を支えた理由や根拠について考える。そこでは、すでに想起してある道徳的行為に基づき、どのような気持ちでその行為ができたのかの理由や根拠を記述させる。③「授業前に振り返った道徳的行為の経験」と「道徳的行為を支えていた理由や根拠」を見つめることを通して、「道徳的価値が自分の中にもある」と自分にある道徳的価値に気付かせる。④自分にある道徳的価値への気付きをさらに深めていくために、道徳的行為ができたときの自分への手紙を書かせる(図4)。

図2 事前アンケートの具体

図3 自分見つけめシート活用(導入時)

表 表現活動の種類とその目的、内容、方法、設定の視点(教材、子供の実態)

表現活動の種類	目的	内容	方法	教材	子供の実態
①教材	道徳的価値の共有	道徳的価値の共有	道徳的価値の共有	道徳的価値の共有	道徳的価値の共有
②子供の実態	道徳的価値の共有	道徳的価値の共有	道徳的価値の共有	道徳的価値の共有	道徳的価値の共有

図4 自分見つけめシート活用(終末時)

学習過程	理解した道徳的価値を基に自己の生き方に気付く	主な手立て
①自分の中にもある道徳的価値の存在に気付く	自己理解	自己の生き方に気付く自分見つけめシートの活用
②道徳的価値がよりよく生きるために必要とされるものであると理解する	価値理解	ねらいに応じた表現活動の設定 ・ 道徳的価値活動 ・ 道徳的価値活動
③道徳的価値についての問いや気がかりをもつ	自己内省	1人1人の思いや経験を語る事前アンケート 自分見つけめシートを活用した問いづくり

図5 研究構想図

(4) 指導の実際（10 月実証）

ア 主 題 名 すききらいにとらわれず生き生きと【C-11 公正、公平、社会主義】

教 材 名 「つくえふき」（学研教育みらい「新・みんなのどうとく」2年）

イ 本主題のねらい

- 自分の考え方や感じ方を働かせて、自分との関わりで日常生活を振り返り、みんなで気持ちのよい生活を過ごすために大切な心は何かという問いを表現することができる。（自己内省）
- だれに対しても好ききらいなく接することで心地よい生活を送ることができることに気付くことができる。（価値理解）
- 自分の好ききらいとは関係なく行った経験やそれを支える理由や根拠を踏まえて、自分にもある好ききらいなく行動しようとする心を見つめることができる。（自己理解）

ウ 本時授業の仮説

第2学年主題「すききらいにとらわれず生き生きと」の学習において、次の手だてを行えば、理解した道徳的価値を基に自己の生き方を見つめる子供が育つであろう。

- 思いや経験を探る事前アンケート・自分見つめシートを活用した問いづくり【着眼ア・イ】
これまでの経験から、みんなで気持ちのよい毎日を過ごす心とは何か問いをもたせる。
- ねらいに応じた表現活動の設定【着眼ウ】
価値葛藤場面や価値覚醒場面での言語的表現活動を設定する。
- 経験を基にした自分見つめシートの活用【着眼エ】
自分自身のこれまでの道徳的行為とそれを支える心情を見つめる。

エ 指導の実際

「公正、公平、社会主義」に関する事前のアンケートの結果では、「自分の好ききらいとは関係なくだれに対しても一人一人大切に正しく行動することは大切だ」という問いに、100%の子供が「思っている」と答えているのに対し、「実際に行動できているか」という問いには、約50%の子供が「できている」と答え、「自分のことだけを考えてしまっていたとき」などに道徳的行為が実現できていない実態がある。

(7) つかむ段階（導入）

つかむ段階では、自分の考え方や感じ方を働かせて、自分との関わりで日常生活を振り返り、みんなで気持ちのよい毎日を過ごすために大切な心とは何かという問いをもつことをねらいとした。事前アンケートで明らかにした本時で取り扱う道徳的価値についての考えと過去の経験から、事前に記述した自分見つめシートを振り返りながら、みんなで気持ちよく生活してきた経験を出し合った。「ドッジビーのときに一緒に入れてあげた」「鉄棒を変えてあげた」など、自分たちの経験を出し合うと、それぞれの感じ方の違いから、「みんなで気持ちのよい生活を過ごすために大切な心は何か」という問いを見いだす姿が見られた【着眼ア・着眼イ】（資料1）。

考察1

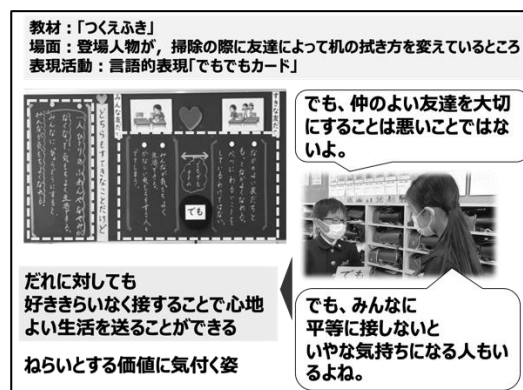
子供たちは、自分見つめシートを基に自分たちの経験を出し合うことで、「みんなで気持ちのよい生活を過ごすために大切な心は何か」という問いを見いだすことができていた。しかし、「友達を大切にするためにはどうすればよいのか」などと、本時に捉えさせたい内容とはつながりのない問いを見いだす子供もいた。これは、事前の活動において、自分見つめシートに記述した自分の経験と考えさせたい道徳的価値とのつながりを捉えさせることが不十分であったと考える。このことから、つかむ段階において、自分見つめシートを活用したことは「みんなで気持ちのよい生活を過ごすために大切な

資料1 経験を出し合う姿

心は何か」という問いを見いだすことに有効であったと考える。一方で、自分見つけめシートに自分の経験を記述させる際の事前アンケートの活用について課題があった。

(イ) 見いだす段階（展開）

見いだす段階では、誰に対しても好き嫌いをなく接することで心地よい生活を送ることができることに気付くことをねらいとした。ここでは、教材「つくえふき」を用いて、登場人物が掃除の際に、友達によって机の拭き方を変えている場面について話し合った。話し合いをしている際に、「でもでもカード」を活用し、考えの理由や根拠を伝え合った。「でも、仲のよい友達を大切にすることは悪いことではないよ。」「でも、みんなに平等に接しないといやな気持ちになる人もいるよね。」と、互いの考えを伝え合う中で、「それでも、やっぱりみんなに平等の方が気持ちのよい生活を送ることができるよね。」と発言しており、「誰に対しても好き嫌いをなく接することで心地よい生活を送ることができる」という道徳的価値を理解する姿が見られた【着眼ウ】（資料2）。



資料2 道徳的価値にせまる姿

考察2

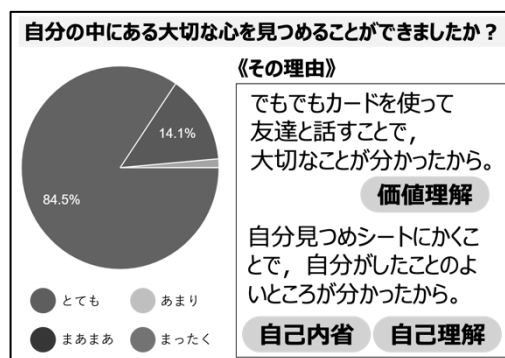
見いだす段階において、言語的表現活動（でもでもカード）を通して、互いの考えを交流しながら道徳的価値を理解する姿が見られた。このことから、見いだす段階において、表現活動を教材や子供の実態に合わせて適切に設定することは、誰に対しても好き嫌いをなく接することで心地よい生活を送ることができることに気付くことに有効であったと考える。

(ウ) 見つめる段階（終末）

見つめる段階では、自分にもある好き嫌いをなく行動しようとする心を見つめることができることをねらいとした。教材を通して理解した道徳的価値を基に、自分見つけめシートに自分の経験ができたわけを記述することで、自己の感じ方や考え方を見つめていった。自分の経験とそれができたわけを結びつけ、「自分が遊ぶときの仲間に入れてあげたのは、（好き嫌いをなく）みんなで仲よくしたい気持ちがあったから。」と発言しており、自分の中にある道徳的価値に気付く姿が見られた。【着眼工】

考察3

自分の中にある道徳的価値に気付く姿が見られた一方で、「友達を仲間に入れてあげたのは、その友達が大好きだから。」など、教材を通して理解した道徳的価値とは異なる視点から理由を書く姿が見られた。これは、自分の経験に対して、その理由を考える際に、本時で捉えた道徳的価値を基に考えさせることが不十分であったと考える。このことから、見つめる段階において、自分見つけめシートを活用することは、自分にある道徳的価値に気付くことに有効であったと考える。一方で、自分見つけめシートに自分の経験について理由を書く際の手立てについて課題があった。



資料3 全体考察

オ 全体考察

学習後に実施した調査では、自分見つけめシートを活用しながら自分の経験と価値理解を結び付けながら自己の生き方に気付く子供の姿が全体の約98%見られた。理由の中には、「でもでもカードを使って友達と話すことで、大切なことが分かったから」と価値理解に関する内容や、「自分見つけめシートに書くことで、自分がしたことの良いところが分かったから」と自己内省や自己理解に関するものがあった。この結果から道徳的行為に関する問いを自分との関わりで解決する学習過程が、理解した道徳的価値を基に自己の生き方に気付くことに有効であったことと考える（資料3）。

(5) 指導の実際（12 月実証）

- ア 主 題 名 みちかな人にあたたかい心で【B-7 親切, 思いやり】
教 材 名 「ぐみの木と小鳥」（学研教育みらい「新・みんなのどうとく」2年）
イ 本主題のねらい

- これまでの経験による感じ方や考え方を働かせて、身近な人に対する親切を気がかりに、親切とは何かという問いをもつことができる。（自己内省）
- 親切とは、相手の状況や相手の思いを自分事として考え、相手が喜んでくれるであろうことをしてあげたいという思いに突き動かされた行動であることに気付くことができる。（価値理解）
- 自分がこれまで身近な人に対してとった行動は、相手の状況や思いを考えることができたからこそ、行動に移すことができたことに気付くことができる。（自己理解）

ウ 本時授業の仮説

第2学年主題「みちかな人にあたたかい心で」の学習において、次の手だてを行えば、理解した道徳的価値を基に自己の生き方に気付く子供が育つであろう。

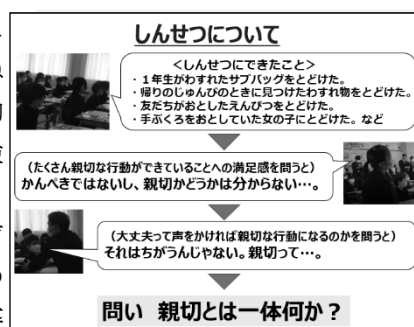
- 事前アンケートと自分見つけめシートを活用した問いづくり【着眼ア・イ】
親切な行為への認識のずれから「親切とは何か」という問いをもつことができるようにする。
- ねらいに応じた表現活動の設定【着眼ウ】
登場人物の心情理解を深めるために役割演技で話し合うことができるようにする。
- 自己の生き方に気付く自分見つけめシートの活用【着眼エ】
自分の経験とその理由を再考する場を設定し、自分への手紙を書くことができるようにする。

エ 指導の実際

「親切, 思いやり」に関する事前のアンケートの結果では、「親切や思いやりとはどのようなことか」という問いに、「助けることや手伝うこと」、「声をかけること」など、「自分以外の誰かに何かをしてあげること」と回答する子供が約90%おり、残りの子供は「分からない」と回答した。このことから、「親切」とは、相手の気持ちに気付き、何かをしてあげたいという心に突き動かされた行為であると捉えるまでには至っておらず、道徳的価値についての認識が不十分であることが分かった。

(7) つかむ段階（導入）

つかむ段階では、自分の考え方や感じ方を働かせて、身近な人に対する親切を気がかりに、親切とは何かという問いをもつことをねらいとした。事前アンケートで明らかにした本時で取り扱う道徳的価値についての考えと過去の経験から、見つけた自分の親切な経験を紹介した。「声をかけることが親切なら、給食中に友達に「大丈夫。」と声をかけたり、休み時間に本を読んでいる友達へ「大丈夫。」と声をかけたりすれば親切な行動になるのかな。」と問うと、それぞれの感じ方の違いから、「親切って一体何か。」という問いを見いだす姿が見られた【着眼ア・着眼イ】（資料4）。



資料4 問いを見いだす姿

考察1

教師が「大丈夫と声をかければ親切なのか。」と問うことで「親切な行動は状況によってちがう。」というずれをつくることはできた。しかし、このずれは教師の発問がきっかけになっていて、子供たちが自分たちで見いだすものにはなっていなかった。これは、道徳的価値観を話し合うことが不十分なことに原因があると考えられる。このことから、つかむ段階において、自分見つけめシートを活用して経験を話し合うことは「親切とは何か」という問いを見いだすことにつながると考える。一方で、自分見つけめシートの中で自分の経験を事前を書いておき、それらの経験を交流することでずれが生まれ、子供たちが自ら問いを見いだすには至っておらず、自分と他者との間に考え方や感じ方のずれを生むための自分見つけめシートの活用の仕方に課題があった。

(イ) 見いだす段階（展開）

見いだす段階では、親切とは、相手の状況や相手の思いを自分事として考え、相手が喜んでくれるであろうことをしたいという思いに突き動かされた行動であることに気付くことをねらいとした。ここでは、小鳥がりすのところへとび立とうとする場面について小鳥になりきることを通して話し合った。そこでは、「りすさんのことが心配。」「りすさんお腹すかせてないかな。」と、「りすさんのことをたくさん考えている。」と発言があった【着眼ウ】（資料5）。

考察2

見いだす段階において、動作的表現活動（役割演技）を通して、小鳥になりきり、りすのことを考えることで、「相手が喜んでくれるであろうことをしてあげたいという思いに突き動かされた親切」という道徳的価値を理解する姿が見られた。このことから、見いだす段階において、追体験できる場面で体験的に共感する場を設定することは、相手が喜んでくれるであろうことをしてあげたいという思いに突き動かされた親切に気付くことに有効であったと考える。

(ウ) 見つめる段階（終末）

見つめる段階では、相手の状況や思いを考えることができたからこそ、行動に移すことができたことに気付くことをねらいとした。教材を通して理解した道徳的価値を基に、自分見つめシートに自分の経験ができたわけを記述することで、感じ方や考え方を見つめていった。また、その経験とわけを踏まえて、そのときの自分へ手紙を書くことで「相手のことを考えて行動していてえらいね。」と記述しており、自分の中にある道徳的価値に気付く姿が見られた【着眼エ】。

考察3

自分の中にある道徳的価値に気付く姿が見られた一方で、「どうなのか分からない。」など、自分の中にある道徳的価値に納得できないと考える姿も見られた。これは、経験とそれらできた理由を考えるときに、本時で捉えた道徳的価値を基に見つめることが不十分であったと考える。このことから、経験とその理由をつなぐための自分見つめシートの活用の仕方を再考する必要があると考える。

オ 全体考察

学習後の自分見つめシートや様子から、自分見つめシートを活用し、自分の経験と価値理解を結び付けながら自己の生き方に気付く姿が全体の約90%に見られた。学習後のアンケートでも「自分見つめシートを使うと自分のよいところが分かった。」と自己内省や自己理解に関するものもあった。この結果から道徳的行為に関する問いを自分との関わりで解決する学習過程が、理解した道徳的価値を基に自己の生き方に気付くことに有効であったと考える（資料6）。

5 研究の成果と課題

(1) 成果

- 自分見つめシートを基に自分の経験から問いをつくり、行為ができた理由を記述することで、自分の中にある道徳的価値に気付く姿に繋がった。

(2) 課題

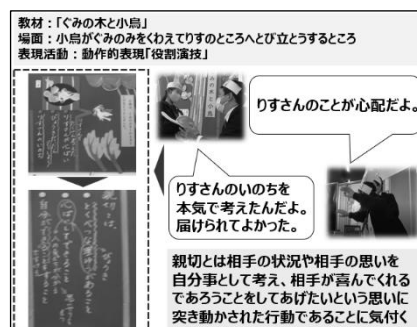
- 自分見つめシートを基にした問いづくりとこれまでの経験と価値をつなぐ場面における自分見つめシートの活用類型について整理する必要がある。

6 研修を修了しての感想

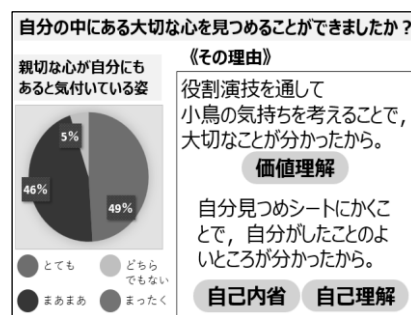
この1年間、道徳科と向き合う時間をいただき、「よりよく生きる」ことの意味や教科の役割や特質に応じた指導とは何かを肌で感じることができました。道徳科を通じて何に気付いていくのかについて今後も研鑽を積んでいく所存です。

備考 ○ 在籍校と電話番号 宗像市立東郷小学校

TEL (0940) 36-2064



資料5 道徳的価値を理解する姿



資料6 全体考察